



【支援企業紹介】②

葛巻高原食品加工株式会社

地域の宝「山ぶどう」で ワイン業界に新風を

次世代モビリティ推進室展示ルームOPEN ④

第19回機械要素技術展出展のご案内 ④

いわてものづくりアカデミー ⑤

平成27年度 第1回
「新素材・加工産業化研究会」の開催 ⑥

MEDTEC JAPAN 2015 ⑥

平成27年度中小企業
外国出願支援事業 ⑦

マイナンバー制度 ⑦

設備貸与制度のご案内 ⑧

合併号告知 ⑧

葛巻高原食品加工の
これがポイント!

昭和63年に第一弾発売、飲みやすさを進化させてきた「山ぶどうワイン」ほか定番の「はたる」、限定醸造の「さくらワイン」など銘柄は実に多彩。山ぶどうの味や風味を活かした醸造法は同社の独壇場といえる。



事業カレンダー

いわて産業振興センターに関連する事業紹介です

7月 [JULY]

- 2日 北東北3県合同商談会(東京都)
- 9日・10日 ものづくりアカデミー・管理者のための生産管理セミナー(盛岡市)
- 23日・24日 ものづくりアカデミー・次世代リーダー養成講座(八幡平市)

8月 [AUGUST]

- 26日~28日 ものづくりアカデミー・品質管理中級セミナー(北上市)

9月 [SEPTEMBER]

- 9日・10日 中堅管理者・後継者養成講座(1)(八幡平市)
- 10日・11日 いわて特産品コンクール(盛岡市)

技アリ!

いわての仕事録



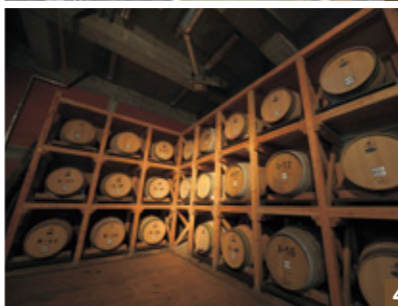
1



2



3



4



5



6



7



8

1 生産するワインは年間約222キロリットル、瓶に換算して30万本にのぼる。売店奥にあるセラーではおよそ1年をかけてワインを熟成。テイスティングは木樽の中で蒸発した分のワインを補充する作業に合わせ行われる。

2 醸造所は白樺林とツツジのコントラストが美しい自然の中に立地。広大な敷地内には地産地消レストランや学習体験施設などもある。

3 醸造所内に並ぶタンクは70基以上。数十リットルから1万5000リットルまでと、仕込み量に合わせ使用されている。セラーの木樽には山ぶどう、小公子、ブラックペガールなどのワインが入っている。

4 山ぶどうをはじめ北米系等品種の白、ロゼ、スパークリングなど銘柄が多い。近年は「澤登ブラックペガール」「蒼-あお-」などの山ぶどう交配種を100%使用したタイプがワイン通に支持されている。

5 山ぶどうは、自社で管理する3ヘクタールのほ場ほか秋田県や山形県などのぶどう農家からも取り寄せる。粒が小さく搾汁率が悪いとされる山ぶどうだが、仕立て方法に様々な改良を加えて取り組んできた。

【支援企業紹介】葛巻町 葛巻高原食品加工株式会社

目標は「山ぶどうで町おこし」 ワインづくりは試行錯誤の連続

気候風土との相性が影響するとされるワインづくり。世界の名醸地と比べて環境的に恵まれているとはいえない日本でも、栽培・醸造技術の蓄積により様々な名作が生み出されてきた。そんな国産ワイン業界に参入しておよそ30年、今や国内のワイン通にその名を知られるワイナリーが本県のくずまきワインである。

「ワインづくりは海外から導入されたいわば他所の文化。その中で、自信を持って『国産』と言えるオリジナルワインを作るのが目標です」。醸造元の葛巻高原食品加工株式会社、大久保圭祐

製造部長はそう言い切る。国産へのこだわりはぶどう品種、それも日本固有種である山ぶどうを活かすことから始まった。

そもそもは昭和60年、「山ぶどうで町おこし」を掲げて設立された同社。周囲に自生し、暮らしと文化に深く根ざしていた山ぶどうの栽培とワイン醸造は、想像以上の苦難をとまなう挑戦となった。課題はワインの味を安定させることで、ネックとなったのが通常のぶどうの3~4倍はあるという山ぶどうの酸味だった。「以前の山ぶどう100%ワインは酸っぱくて飲みにくかった」と振り返る。

だが酸味こそ山ぶどうの個性。酸度を下げる醸造法もあるが、同社では酸

国産の山ぶどうワインづくりに取り組んで30年、葛巻高原食品加工株式会社の「くずまきワイン」が今、国内ワイン業界で注目を集めている。創業以来のこだわりと、今後のワインづくりについて探る。

【いわて産業振興センターの活用実績】
「いわて食の大商談会」をはじめとするセンター主催の物産展事業を定期的に利用。企業と商品の周知に活用してきた。今後、生産管理等の研修や講座などを、利用したい意向あり。

味を活かしたワインづくりも試行。「酸味を残した甘口タイプ」「酸味をいかした辛口タイプ」という、くずまきワインの個性を確立するに至ったのである。

産地別山ぶどうワインがブーム 新しい「テロワール」の誕生

同社のワインは、山ぶどう100%のタイプだけでも甘口の「山ぶどうワイン」、辛口の「レアリティ」「山ぶどうワインクラシック」など実に多彩。それは山ぶどうの個性を知り尽くしたから出来ることであり、「自社栽培ほか東北を中心に信頼できる農家に栽培していただいている」と大久保醸造部長。ワイン専用品種ぶどうで作られるフルボディも

「山ぶどうに特化している当社で作る必要はない」と、実に徹底している。

そんな企業姿勢が浸透しているからだろう、近年は遠野をはじめ野田、岩泉、宮古に久慈など各地の山ぶどうを使ったワインの委託生産が増えており、「産地別山ぶどうワイン」はまさにブームの様相。

自社製品としても、山ぶどう交配種ブラックペガールを使用した「澤登ブラックペガール」や同じく交配種の小公子使用の「蒼-あお-」など、個性の強いワインを次々発売。「独特の香りがするブラックペガールも、MLF(マロラクティック醗酵)で醸造することで飲みやすく個性あるワインになる」と大久保醸造部長は説明する。北東

北の厳選した山ぶどう3種とさくら酵母を使用した「さくらワイン」も、毎年7,000リットルが完売する人気商品となっている。

山ぶどうワイン人気の背景を、大久保醸造部長は「ワインの酸味に対する許容範囲が大きくなってきたからだろう」と分析する。時間は、ワインと同様に日本人の味覚も変化させてきた。これを踏まえ、同社では産地ごとに醸造法を変えるなど、山ぶどうの個性を生かしたワインづくりをさらに進めていく考えという。

ワインづくりに適した気候風土を総称して「テロワール」という。くずまきワインが目指すのは、まさに山ぶどうのテロワールなのである。

技アリ!ポイント
積み重ねた知識と技術で「ご当地ワイン」を製造
山ぶどうワインの醸造法は多様で、当社では工業技術センターと果汁仕込みの共同研究を実施する一方、昔ながらの醸仕込みにも取り組んでいます。産地の個性を生かして色々な製法で、色々な山ぶどうワインを作っていきたいと考えています。

企業データ	会社名	葛巻高原食品加工株式会社	創業	昭和61年(1986年)2月
	本社	葛巻町江刈1-95-55	従業員	35名
	電話	0195-66-3111	業種	果実酒、清涼飲料水、農産食品の製造・販売
	代表者	鈴木重男	URL	http://www.kuzumakiwine.com/

地域の宝「山ぶどう」で ワイン業界に新風を



製造部長
大久保 圭祐

次世代モビリティ推進室展示ルームOPEN!

いわて産業振興センターは、同センター内に「いわて環境と人にやさしい次世代モビリティ開発拠点」プロジェクトの展示ルームを開設、5月13日に県や商工団体、プロジェクト関係者にご出席いただき開所式を開催しました。

展示ルームには、いわてショーケースカー、EV教材キット、県内企業紹介パネルを展示しております。なお、展示内容は、定期的なアップデートを予定しております。

プロジェクト関係者以外の方も自由に見学いただけますので、ぜひともご覧ください。

展示時間

平日
8:30~17:15

●プロジェクトの紹介

本プロジェクトでは、「知のネットワーク構築」として、「いわてショーケースカー」、「ニーズシスマッチング」、「学生フォーミュラ支援」、3つのプロジェクトにより産学官連携を推進しています。

いわてショーケースカーは、岩手の大学や企業などの開発製品や量産部品(約100点)を車のフレーム内に搭載、「見える化」することにより、岩手県産の技術が一目でわかりPRできる事、産学が連携し新たな技術を創出する事、などを目的とし製作しました。このショーケースカーは2016年1月13~15日に東京ビッグサイトで開催される「オートモティブワールド2016」と同年2月にみやぎメッセで開催予定の「仙台モーターショー2016」などに展出します。

ニーズシスマッチングは、県内自動車メーカー、T1メーカー等のニーズ(課題)を大学や企業のシーズを活用し解決する取組みです。この取組みをきっかけとした新しい連携や取引へつなげることを目的としています。

学生フォーミュラは、岩手大学・岩手県立大学・一関高専の連合チームにより、EVフォーミュラカーを設計、製作しレースに参戦する事を通じ、学生の自主的なものづくりの総合能力を養成し、将来の自動車産業を担う人材を育てることを目的としており、本プロジェクトでは、この学生の活動を支援しています。



募集!

本プロジェクトでは、いわてショーケースカーに搭載する部品・開発・製品を募集しております。貴社が手掛ける製品・技術をフレームカーに搭載し、幅広くPRしませんか?

プロジェクトに関する問い合わせは

いわて産業振興センター 次世代モビリティプロジェクト推進室 田澤/工藤 まで

第19回 機械要素技術展のご案内

平成27年6月24日(水)~26日(金)の3日間、東京ビッグサイト(東京都江東区)にて、「日本ものづくりワールド第19回機械要素技術展(M-Tech)」が開催されます。

機械要素・機械材料(ベアリング、ねじ、ばね等)と加工技術(金属、樹脂)などの主要企業が一堂に集結する展示会です。

この展示会は、日本最大級の集客力を誇り、製造業の設計技術者、研究開発者、生産技術者、購買・資材担当者など、多数の来場者があります。

昨年度は2,102社が出展し、3日間でのべ80,606人の来場者があり、

出展社と来場者の間で、活発に見積依頼や商談が行われていました。

当センターでは、「ものづくり」をテーマに、「岩手県共同出展ブース」を毎年出展しており、今年度も、17社の企業が出展することとなりました(下記参照)。

メーカーのご担当者様、本県パビリオン以外にも岩手から多くの企業の出展がありますので、皆さまのご来場をお待ちしております。

岩手県内の企業様、本案内をご覧になり、来年度の出展についてご関心のある企業様がございましたら、「岩手県共同出展ブース」の活発的な商談風景を見学にお越しください。

岩手県共同出展ブース

開催日 平成27年6月24日(水)~26日(金)
10:00~18:00(最終日は17:00まで)

開催場所 東京ビッグサイト(東京国際展示場)

参考HP <http://www.mtech-tokyo.jp/>(機械要素技術展)
<http://www.bigsight.jp/>(東京ビッグサイト)

同時開催展示会
第26回設計・製造ソリューション展
第6回医療機器開発・製造展(MEDIX メディックス)
第23回3D&バーチャルリアリティ展

No	出展社様名	キャッチコピー
1	(株)アイオー精密	研究開発部門向け試作パーツ
2	岩手製鉄(株)	鋳造シミュレーション・鋳造品サンプル
3	(株)エイワ	COBARION®:岩手発高付加価値コバルト合金
4	大野ゴム工業(株)	ゴムホース、ゴムと金属の接着品等、工業用品関連のゴム部品
5	大森クローム工業(株)	工業用硬質/無電解ニッケルめっき製品・アルマイト製品
6	オーレックス(株)	オイルシール、高機能ゴム材料製品、ゴム表面改質技術
7	(株)共立精工	同時5軸複合加工機による半導体、液晶製造装置部品
8	(株)小林精機	高精度切削加工部品
9	(有)サワ	ネジ、ナット、ボルトを真空で吸着
10	(有)ジーエフトップ	特注スプルーブッシュ
11	品川光学(株)	光学ガラスレンズ、単結晶レンズの研磨品
12	(有)青匠回路設計	アナログ高密度基板設計
13	(株)千田精密工業	FSW(摩擦攪拌接合)での真空部品加工
14	(株)ナテック	締結素材に適したフォーミングスクリーウの紹介
15	(有)プロフィット	微細加工、難削加工 などの 精密加工
16	盛岡セイコー工業(株)	高級メカ時計
17	和田工業(株)	精密プレス製品

平成27年度 いわてものづくりアカデミーのご案内

いわて産業振興センターでは県内中小企業の人材を育成するため、企業の管理者・後継者・製造現場スタッフ等を対象に、各種セミナーを開催します。ご参加をお待ちしています。

中堅管理者・後継者養成講座

企業が繁栄・存続していくためには、将来にトップを支えることとなる中堅管理者と後継者の養成が不可欠の条件となります。

この講座では、管理者・後継者に要求されるテーマを「経営理念・戦略」「計数の理解」「リーダーシップ」の3つに絞って指導します。

テーマ 中堅管理者の立場と役割、環境の変化と企業の対応、経営理念と経営戦略、会社で使う計数の基礎、リーダーシップ、部下指導

講師 株MELソリューション 安田 芳樹、株MELコンサルティング 渡辺 晴樹

日程 平成27年9月9日・10日、10月15日・16日、11月12日・13日

会場 栗石町・ゆこたんの森ほか

受講料 1名につき50,000円(税込)

次世代リーダー養成講座

中小企業を支えるのは結局のところ「人」、人財です。当コースは自社の10年後、20年後に幹部として活躍する次世代の若手リーダーを対象にした1泊2日の研修です。「部下育成」や「コミュニケーション」の基本を学び、職場での「問題解決力」を高める体験型・参画型の講座で次世代リーダーを鍛えます。

テーマ 部下育成、コミュニケーション、リーダーシップ、問題解決

講師 株エム・イー・エル 佐藤 康二

日程 平成27年7月23日・24日

会場 八幡平市・八幡平ハイツ

受講料 1名につき15,000円(税込)

管理者のための生産管理セミナー

企業が継続して利益を確保していくためには、お客様(取引先様)に満足してもらうことが、重要な条件となります。

本セミナーでは、お客様(お取引先様)が満足するQCDを維持、提供していくために必要となる生産管理の考え方を講義と演習で学んでいただきます。

テーマ 生産管理とは、生産計画の流れ、生産統制とは、多品種少量生産の生産管理、生産管理とリードタイム、生産方法の違いについて演習による体験

講師 経営コンサルタント 齋 巖

日程 平成27年7月9日・10日

会場 盛岡市・岩手県工業技術センター

受講料 1名につき10,000円(税込)

現場管理者・リーダーのための 原価管理とコストダウンセミナー

企業間の競争が厳しい今日、製造現場において日々のコストダウンは言うまでもありません。しかし、「改善をしても思うようにコストダウン効果が出ない」、「コストダウンテーマに困っている」などをよく聞きます。

本セミナーでは、コストダウンをして会社の利益を創出するために必要な現場管理の進め方について学びながら、生産現場でコストダウン活動を具体的に進めていく手法を講義と演習を交えて学んでいただきます。

テーマ 原価のしくみ、コストダウンの定石、究極の材料費と加工費の追求

講師 株MEマネジメントサービス 大塚 泰雄

日程 平成27年10月29日・30日

会場 盛岡市・岩手県工業技術センター

受講料 1名につき10,000円(税込)

品質管理中級セミナー

品質管理と品質保証は奥の深い世界であり、加工の難易度、材質の問題、精度等刻々変化するものづくり現場に対応して管理手法や検査手法も不断のレベルアップを図る必要があります。

本セミナーでは、最新の品質管理の進め方や、大手メーカーに対しても確実な品質保証ができるレベルの管理技法を指導します。

テーマ 品質管理の必要性・考え方、TQMの進め方、トラブル解決法・標準化、各種管理・検査手法他

講師 玉川大学経営学部 教授 大藤 正

日程 平成27年8月26日・27日・28日

会場 北上市・北上オフィスプラザ

受講料 1名につき15,000円(税込)

ISO9001内部監査員養成講座

品質管理・保証の国際規格ISO9001の取得・維持は、品質向上や競合他社との差別化はもとより、企業体質強化、企業イメージ向上等、経営戦略上の重要事項となっています。

この講座は、内部監査員を目指す人のための実践的な講座です。

テーマ ISOの動向、システム導入のメリット、内部監査ロールプレイング、是正処置要求書・監査報告書の作成演習

講師 株高野テクノサービス 高野 清治

日程 平成27年9月15日・16日

会場 花巻市・ホテル志戸平

受講料 1名につき10,000円(税込)

※当センターの賛助会員の皆さまは、各コースの受講料が2割引になります。

詳しい内容はホームページをご覧ください。
お申し込みもできます。

<http://www.joho-iwate.or.jp/kenshu/>

平成27年度 中小企業等外国出願支援事業

現在、国内の中小企業等において自社の技術・商品を活用した海外戦略が急激に進んでおります。当センターではこのような知財のグローバル化を視野に入れている岩手県内の中小企業

業等を対象として、特許権等、知的財産権の外国出願費用を支援する事業を実施します。

詳細につきましては、当センターWEBサイトをご覧ください。

対象権利

特許権、実用新案権、商標権(冒認対策商標含む)、意匠権
*冒認対策商標…いわゆる「抜け駆け対策」。商標が他者によって出願され、その国でのビジネスができなくなることを防ぐものです。

助成対象

外国特許庁への出願時に要した費用(翻訳費・外国出願料・外国代理人費用・手数料等)

- 国内出願費用、PCT出願費用、国内出願・PCT出願の弁理士費用は認められません。
*これらについては、中小企業向けの優遇措置が別途設けられています。
- 日本国特許庁に支払う料金(特許印紙含む)は対象外です(マドリッド協定議定書に基づく国際登録出願に要する費用など)。
- 弁理士費用における消費税相当額は対象となります。
- 複数の国でも、外国出願に要する費用は対象となります。

補助金

対象費用の1/2の補助を行い、上限は特許150万円、実用新案・意匠・商標60万円まで(冒認対策商標は30万円まで)とします。

- 1企業が複数案件を申請することは可能です(特許+商標など複数制度も可)が、1企業に対する補助金の上限は300万円です。

条件

- 岩手県内で事業を営む中小企業等(個人、組合含む)であること。申請時点で事業を実施していない個人は対象となりません。
- 当センターへの応募時点において日本国特許庁に特許出願(PCT出願を含む)していること。
- 日本国特許庁に国内出願(日本国特許庁への出願は、当該年度内である必要はありません)した者で、年度内に優先権を主張して(商標権をのぞく)外国特許庁に出願を行う者。
- 今年度内に外国への直接出願または指定国への国内段階移行が完了するもの。
- 外国への出願手続きが完了している(出願料金を納付済み)場合は対象となりません。
- 優先権を主張しないものは、日本国内出願による新規性喪失で拒絶されるおそれがあるので、対象となりません(商標権をのぞく)。

注意

- 申請後、審査会を行い採否を決定します。
- 採択後、経費の支払いを確認してから助成金を交付しますので、領収書等は破棄せず、保管するようにして下さい。

最近3ヶ年の実績

H24	特許4社・商標4社
H25	特許2社・意匠1社
H26	特許7社

[公募締切] 7月10日[金]

*予算の枠がなくなった場合、受け付けを終了します。余裕が発生した場合は、第2次公募を行います。

【お問い合わせ・お申し込みは】 産業支援グループ TEL 019-631-3824 FAX 019-631-3830 <http://www.joho-iwate.or.jp/fipr/>

平成27年度 第1回「新素材・加工産業化研究会」の開催について

当センターでは、岩手県の企業、研究機関、支援機関等が一体となって、特殊合金等の新素材の製造とその加工産業集積による産業クラスターの活性化を進めることを目的とし「新素材・加工産業化研究会」を開催しております。

今年度第1回目は『切削・研削』をメインテーマに、研削現象のモデル化により「研削加工」の本質に迫る講演、自社技術の高度化によりグローバルオンリーワン企業を目指す企業の実例紹介、難削材加工に関する最新技術動向を紹介致します。

ご多忙の折とは存じますが、ご出席いただきますようお願い申し上げます。

開催日 平成27年7月24日(金) 14:00~17:10

会場 ホテルニューカーリーナ2階 アイリス

講演

テーマ1:「研削の勧め」
 東北大学名誉教授 庄司 克雄 様

テーマ2:「超精密加工技術の販路拡大の取り組み事例紹介」
 株式会社ティ・ディ・シー 代表取締役 赤羽 優子 様

テーマ3:「難削材の特性と加工技術」
 株式会社タンガロイ マーケティング本部 大屋 周一 様

*講演終了後、交流会を予定しております(会費4,000円)

対象者 特殊合金や難削材加工に関心を持つ企業関係者、大学の研究者等

主催 公益財団法人いわて産業振興センター

共催 岩手県新素材・加工産業集積促進協議会

申込先 公益財団法人いわて産業振興センター
 ものづくり振興グループ
 「新素材・加工産業化研究会」事務局
 (担当:鈴木、嶋)
 TEL: 019-631-3825 FAX: 019-631-3830

MEDTEC JAPAN 2015に出展しました

4月22日(水)から4月24日(金)までの3日間、東京ビッグサイト(東京都江東区)において医療機器展示会「MEDTEC Japan 2015」(主催:UBM Canon Japan 合同会社)が開催され、本県からは医療機器事業化研究会会員企業6社が岩手県共同出展ブースに出展しました。

本展示会は医療機器の設計・製造に特化した専門展示会で、国内外から約530社のサプライヤーや関連団体が集結する国内最大規模の医療機器展示会です。一昨年に閣議決定された「日本再興戦略」において、国が健康・医療関連産業の発展に向けた政策を積極的に推進していく方向性を打ち出したことが大きく影響し、昨年に引き続き、来場者数、出展企業数ともに大幅に増加しております。

岩手県共同出展ブースは、本展示会の1回目から毎年継

続して出展しており、今回で7回目の出展になります。出展企業の優れた製品や技術を医療機器メーカー等のお客様に見ていただき、新しいビジネスを創出すること、また、異業種からの参入を促進することを目的に継続出展しております。

主な来場者は、医療機器メーカー等の設計技術者、研究開発者、購買・資材担当者などで、出展企業との間で名刺交換、見積依頼、具体的な商談が活発に行われました。多くの出展企業が「見積の依頼があった」、「後日訪問の約束を取り交わした」などの成果をあげるなど、「いわて発」の医療機器技術を全国に向けて発信し、非常に実りのある出展となりました。

今後も当センターでは、本県の医療機器産業創出に向けたこのような取組を推進してまいります。



【出展メーカー】

① (株)WING	【樹脂加工】
② (株)共立精工 / (株)ハヤセ	【高精度機械加工】
③ 三光化成(株)	【樹脂成型】
④ 品川光学(株)	【レンズ加工】
⑤ (株)テクノアート	【殺菌洗浄装置】
⑥ (有)プロフィット	【金属・樹脂微細加工】

WEBサイトはこちら

<http://www.medtecjapan.com/ja>

開催期間の来場者 **32,020名(3日間)** ※H26:28,137名(3日間)

平成27年10月よりはじまる「マイナンバー制度」 民間事業者も準備が必要です!

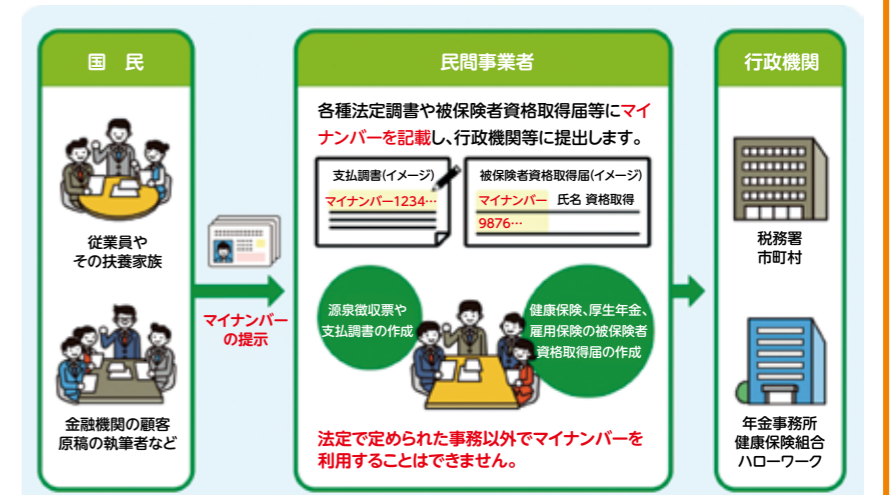
国民の一人ひとりにマイナンバー(12桁の個人番号)が割り当てられる「マイナンバー制度」が平成27年10月からはじまります。平成28年1月からは、社会保障・税・災害対策の行政手続きで使用がはじまり、それに伴い民間事業者も、税や社会保険の手続きで、従業員などのマイナンバーを取り扱います。

どんな準備が必要なの?

- マイナンバーを適正に扱うための社内規定づくり(基本方針、取扱規定の策定)
- マイナンバーに対応したシステム開発や改修(人事、給与、会計システム等への対応)
- 特定個人情報の安全管理措置の検討(組織体制、担当者の監督、区域管理、漏えい防止、アクセス制御など)
- 社内研修・教育の実施(総務・経理部門などマイナンバーを取扱う事務を行う従業員への周知徹底)

マイナンバー取扱いの注意点は?

マイナンバー制度では、行政機関だけでなく、民間事業者にも特定個人情報(マイナンバーをその内容に含む個人情報)の適正な取扱いが求められます。マイナンバーは法律で定められた範囲以外での利用が禁止されています。



もっと詳しく知りたい!

詳細は、内閣官房マイナンバー制度HPで確認またはマイナンバーコールセンターまでお問い合わせください。
[問い合わせ先] マイナンバーコールセンター 0570-20-0178(全国共通ナビダイヤル)

平成27年度 設備貸与制度のご案内

長期

5年～10年

低利

年1.3%～1.7%

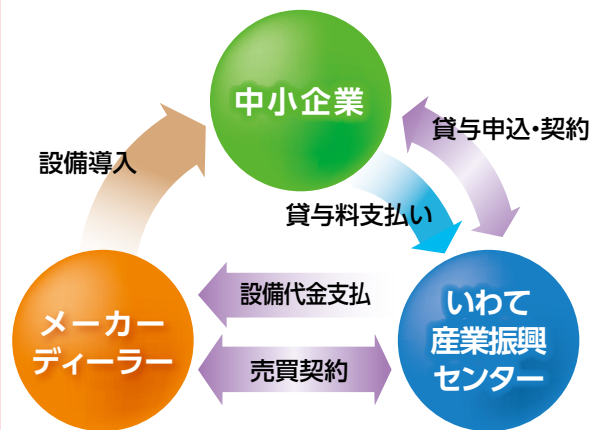
(固定金利)東日本大震災で直接被災した企業は更に-0.1%

無担保

金融機関融資と別枠です

制度のしくみ

この「設備貸与制度」は、岩手県内の中小企業の皆様が必要とする機械、設備をセンターが購入し、長期・低利で貸与する公的制度です。



区分	設備貸与(割賦販売)	リース
対象企業	県内に事業所・工場を有する中小企業 (企業組合・協業組合含む)	県内に事業所・工場を有する中小企業 (企業組合・協業組合含む)
貸付期間	5年～10年 (導入設備耐用年数上限) (右記条件3を満たせば10年以内で2年延長可能)	5年～10年 (導入設備耐用年数上限) (右記条件3を満たせば10年以内で2年延長可能)
貸付限度額(消費税含む)	100万円～1億円 (右記条件1を満たせば2億円)	100万円～1億円 (右記条件1を満たせば2億円)
対象設備	設備(建物を除く)	汎用設備(中古・車両を除く)
保証金	貸与額の10% (右記条件1を満たせば5%) (最終償還時に返済)	---
利息(貸与損料)	年率1.30%～1.70% (固定金利) (お申込企業様の財務内容により決定) (右記条件2を満たせば-0.1%)	---
リース料(月額)	---	5年=1.867%(参考) 7年=1.389%(参考)
連帯保証人	法人:代表者1人 個人不要(経営者保証ガイドラインに準拠)	

※運賃・取付工事は貸付の対象となりますが、建物部分・基礎工事は対象外です。
一部、対象とならない業種、設備がございますので詳しくはセンターにお問合せ下さい。

条件1

- ①中小企業新事業活動促進法に基づく計画認定企業(経営革新・異業種連携)
 - ②中小企業地域資源活用促進法に基づく事業計画認定企業
 - ③農商工等連携促進法に基づく事業計画認定企業
 - ④いわて希望ファンド、いわて農商工連携ファンド採択企業
 - ⑤自動車関連産業企業
 - ⑥加工高に対する県内企業への外注比率が10%以上の企業
 - ⑦県内企業5社以上に下請発注している企業
 - ⑧県内企業への下請発注額が1,000万円以上の企業
 - ⑨今回の設備を設置することで⑥～⑧のいずれかに該当する企業
- ※上記のいずれかの条件を満たせば、2億円まで貸付及び保証金5%対応可能

条件2

東日本大震災で設備又は事業所が被災し、市町村等が発行する罹災証明書等の発行を受けている中小企業
※上記の条件を満たせば、適用利率から0.1%の引下げ及び据置期間2年の対応可能

条件3

商工会及び商工会議所を經由して申込をした企業
※上記の条件を満たせば、10年以内において、返済の基準となる耐用年数の期間について2年を超えない範囲内で延長すること可能

お問い合わせ 総務・金融グループ ☎019-631-3821 FAX019-631-3830 <http://www.joho-iwate.or.jp/setsubi>

合併号発行のお知らせ

当いわて産業振興センターの各種事業につきまして日頃より、御理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。
諸般の事情により「産業情報いわて」は、7月号・8月号、10月号・11月号及び1月号・2月号を合併号として以下のとおり発行いたしますのでお知らせいたします。

●7月号・8月号合併号 [発行日]2015年7月25日 ●10月号・11月号合併号 [発行日]2015年10月25日 ●1月号・2月号合併号 [発行日]2016年1月25日

最新情報は当センターのホームページ(<http://www.joho-iwate.or.jp>)で随時掲載してまいります。

(公財)いわて産業振興センター広報誌

産業情報いわて

2015年6月10日

発行/公益財団法人 いわて産業振興センター

〒020-0857 盛岡市北飯岡2丁目4-26(岩手県先端科学技術研究センター2F)

TEL.019(631)3823

E-mail joho@joho-iwate.or.jp URL <http://www.joho-iwate.or.jp/>

編集印刷/川嶋印刷株式会社

